

福島第一原子力発電所 港湾内・周辺海域の海水モニタリング状況 **TEPCO**

2025年10月6日
東京電力ホールディングス株式会社

■ 1-4号機取水口開渠内

2015年10月の海側遮水壁閉合後、海水中放射性物質濃度が低下し、至近では横ばい傾向となっている。降雨時に、K排水路、BC排水路から雨水排水が流入し、セシウム137、ストロンチウム90の一時的な濃度変動が見られるが、降雨後は速やかに低下する。

また、メガフロート移設工事に伴い、2018年にシルトフェンスを開渠北側から中央に移設したため、その後は取水口北側の海水中放射性物質濃度は南側に比べて低い濃度で推移している。

降雨時の上昇を除けば、至近1年程度では、セシウム137濃度は1～10Bq/L程度、トリチウム濃度は10～50Bq/L程度、ストロンチウム90濃度は0.1～5Bq/L程度で推移している。

■ 港湾内

2015年10月の海側遮水壁閉合後、海水中放射性物質濃度が低下し、至近では横ばい傾向となっているが、物揚場前では長期的に見れば緩やかな低下傾向が見られる。降雨時には、1-4号機取水口開渠内同様、セシウム137、ストロンチウム90濃度の一時的な濃度上昇が見られるが、降雨後は速やかに低下する。

降雨時の上昇を除けば、至近1年程度では、セシウム137濃度は不検出（0.4Bq/L未満）～1Bq/L程度、トリチウム濃度は1～5Bq/L程度、ストロンチウム90濃度は0.01～0.1Bq/L程度で推移している。

■ 港湾周辺

5,6号機放水口北側（T-1）の海水中放射性物質濃度は、長期的にゆるやかな低下傾向が見られる。

至近1年程度では、セシウム137は0.01～0.1Bq/L程度、トリチウム濃度は0.1～4Bq/L程度、ストロンチウム90濃度は0.001～0.01Bq/L程度の低濃度で推移している。ALPS処理水放出期間中は、一時的なトリチウム濃度の上昇が見られるが、低濃度であり海域シミュレーションの結果などから想定の範囲内と考えている。

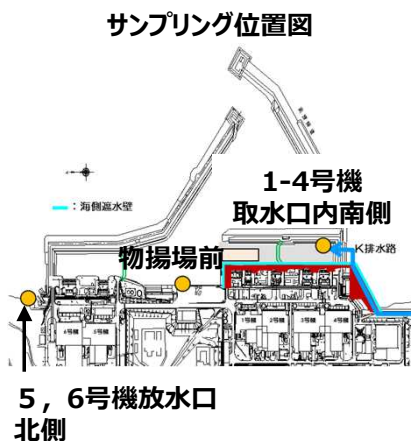
■ 港湾外10km～20km圏内

港湾外10km～20km圏内の海水中放射性物質濃度は、セシウム137濃度は長期的に見れば緩やかな低下傾向が見られる。トリチウム濃度は概ね不検出（0.4Bq/L未満）で推移している。

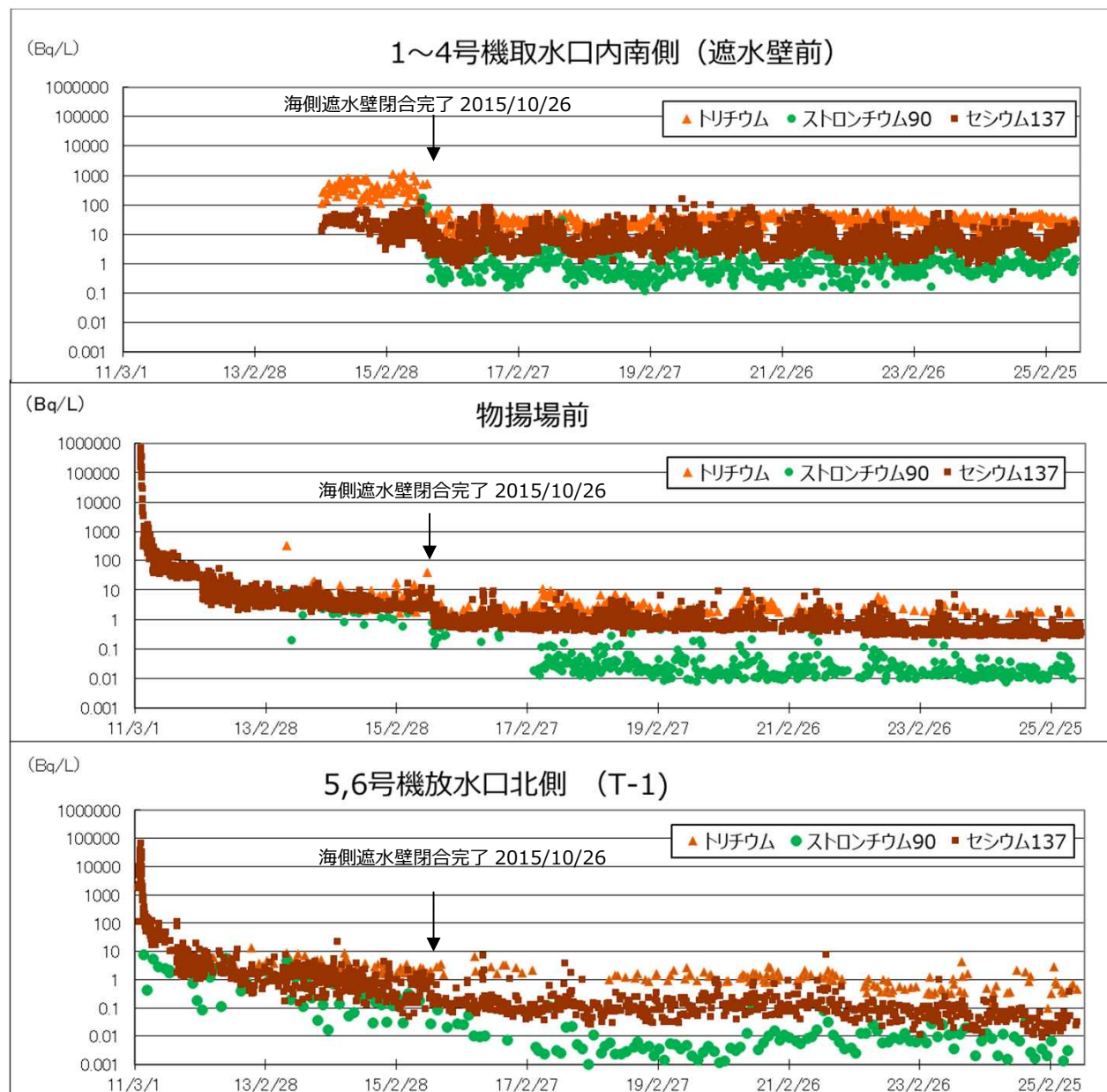
至近1年程度では、セシウム137濃度は海岸で0.01～0.02Bq/L程度、沖合では0.01Bq/L未満の低濃度で推移している。トリチウム濃度は、ほとんどが不検出（0.4Bq/L未満）で推移している。

港湾付近の海水中放射性物質濃度の長期的な変動

セシウム137、トリチウム、ストロンチウム90の分析を行っている港湾付近の調査点のうち3地点について、長期的な変動傾向を右に示した。

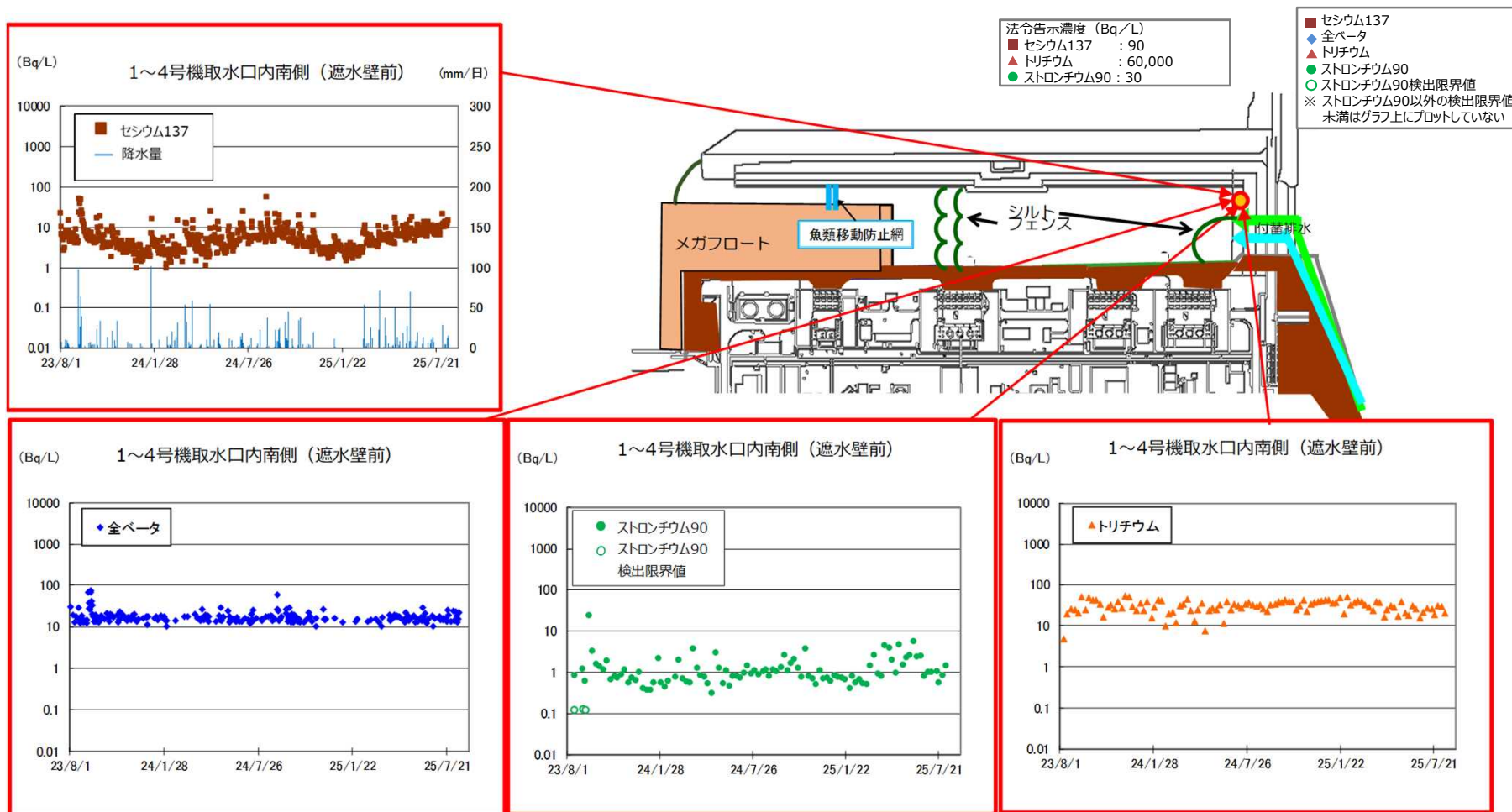


※検出限界値未満はグラフ上にプロットしていない



【1～4号機取水口開渠内①】 海水サンプリング結果

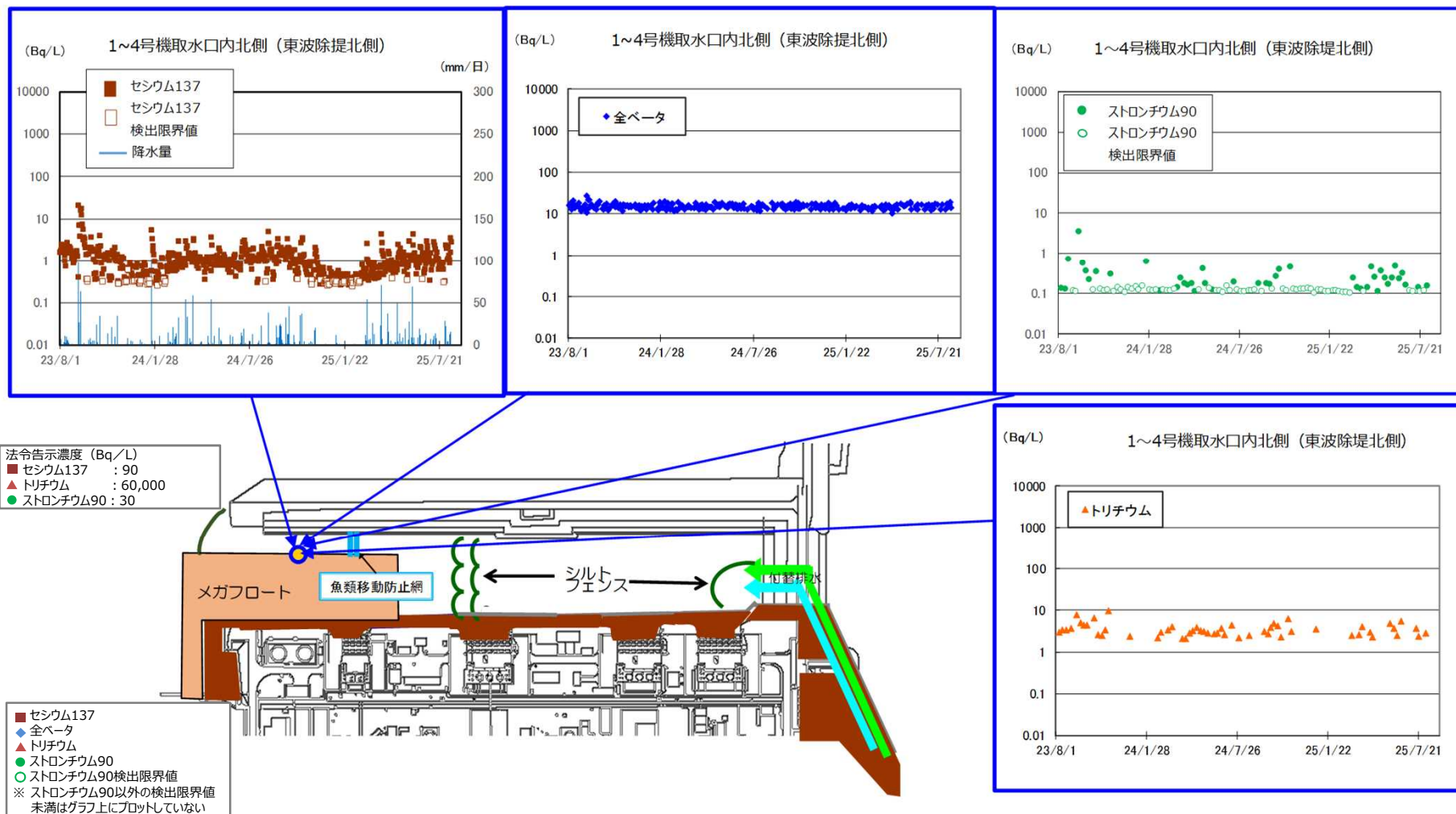
- 降雨時にセシウム137の一時的な濃度上昇が見られるが、2024年以降は降雨が少ないこともあり、2023年に比べて上昇は小さく推移している。
- 引き続き、モニタリング結果を監視していく。



※10Bq/L前後の全ベータ検出は、海水中の天然核種カリウム40(10数Bq/L)の影響を受けているもの。

【1～4号機取水口開渠内②】 海水サンプリング結果

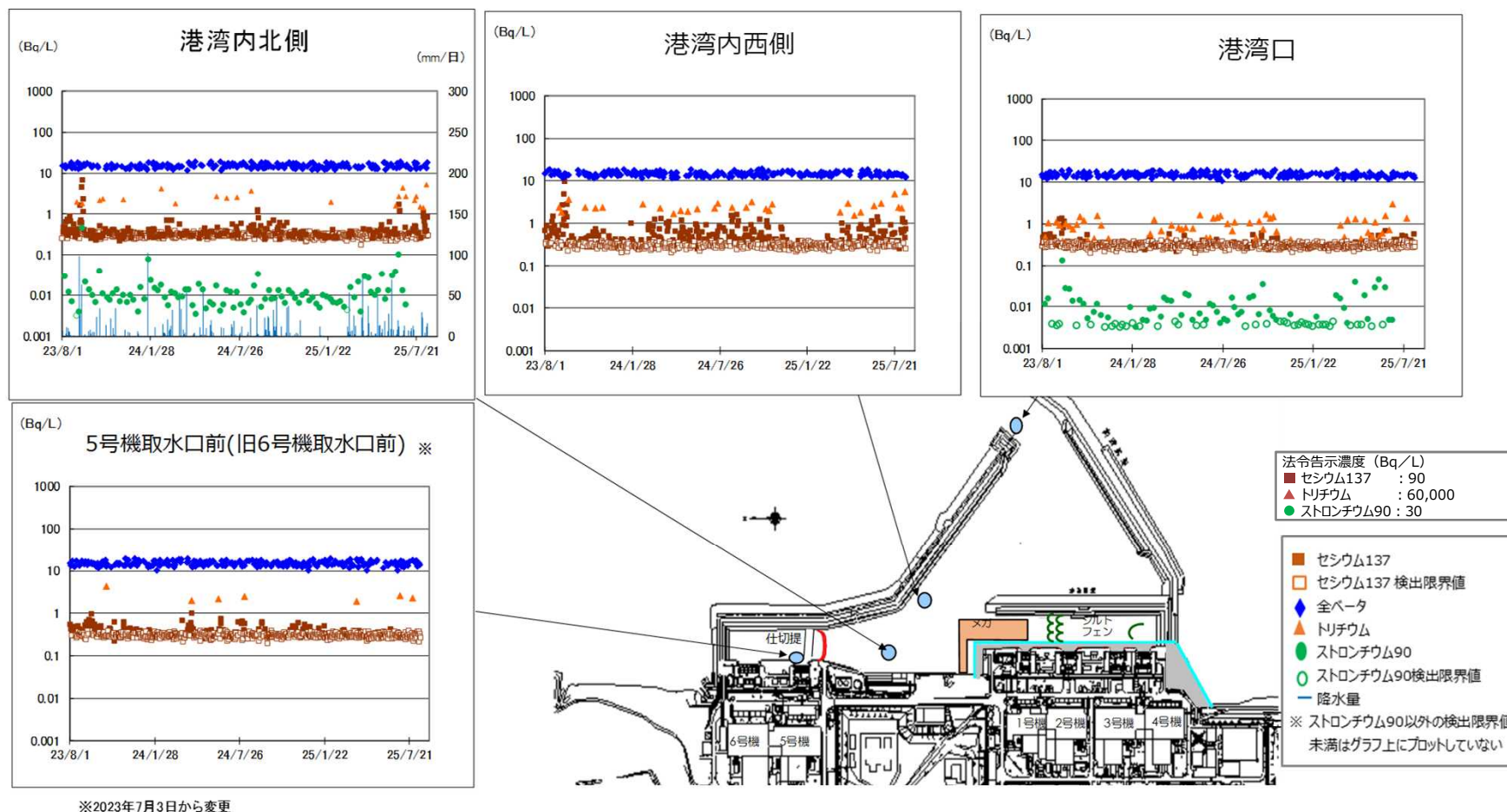
- 降雨時にセシウム137の一時的な濃度上昇が見られるが、2024年以降は降雨が少ないこともあり、2023年に比べて上昇は小さく推移している。
- 引き続き、モニタリング結果を監視していく。



※10Bq/L前後の全ベータ検出は、海水中の天然核種カリウム40(10数Bq/L)の影響を受けているもの。

【港湾内①】 海水サンプリング結果

- 海側遮水壁閉合後、港湾内の1～4号機取水口開渠の外側では、海水中の放射性物質濃度が低下し、その後は同程度で推移している。
- 降雨時には、セシウム137濃度に一時的な上昇がみられるが、降雨後は低下している。
- 至近1年程度では、トリチウム濃度は、1～5Bq/L程度の範囲で推移している。



※10Bq/L前後の全ベータ検出は、海水中の天然核種カリウム40(10数Bq/L)の影響を受けているもの。
 ※港湾口については、2022年6月からトリチウムの検出限界値を0.4Bq/Lに変更。

【港湾内②】 海水サンプリング結果

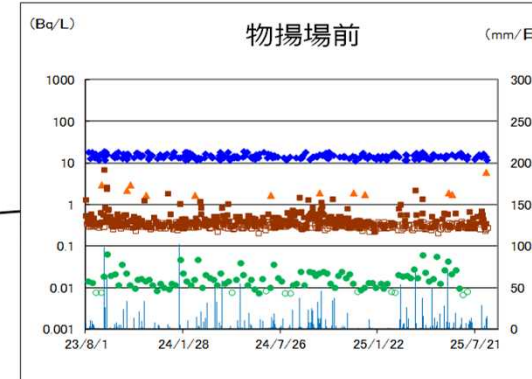
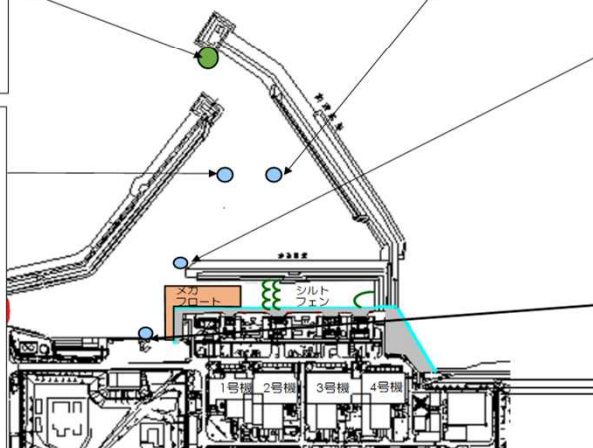
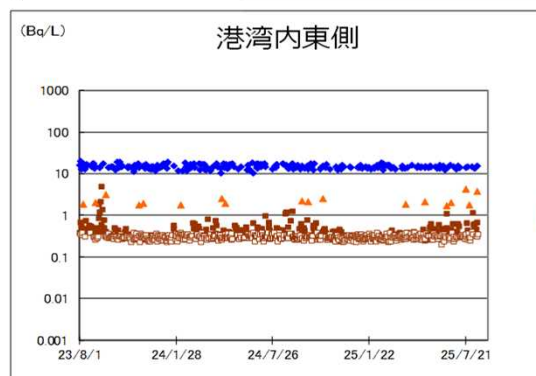
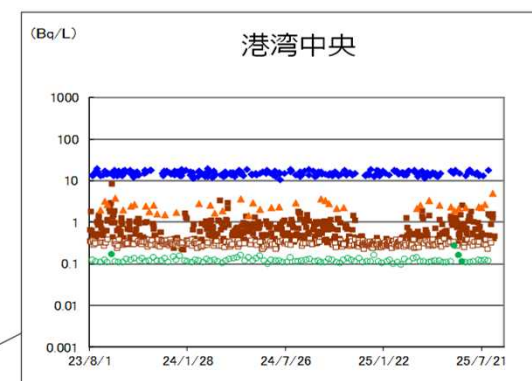
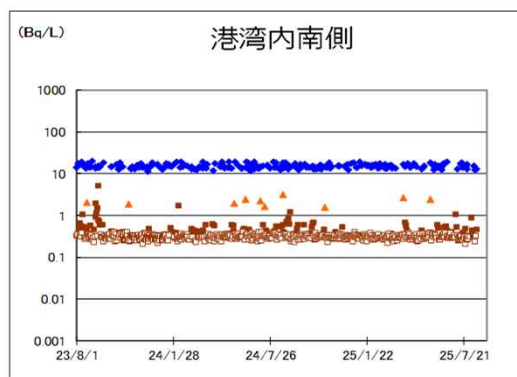
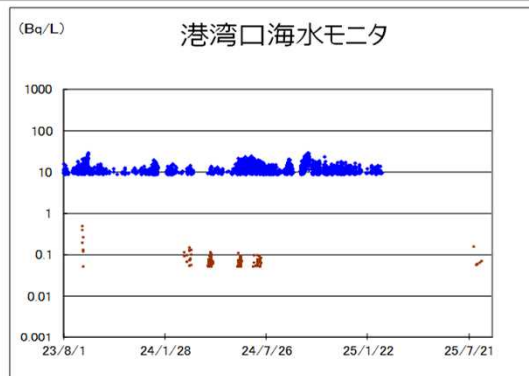
- 海側遮水壁閉合後、港湾内の1～4号機取水口開渠の外側では、海水中の放射性物質濃度が低下し、その後は同程度で推移している。
- 降雨時には、セシウム137濃度に一時的な上昇がみられるが、降雨後は低下している。
- 至近1年程度では、トリチウム濃度は、1～5Bq/L程度の範囲で推移している。

※悪天候による設備不具合や作業点検に伴う停止

2025/7/1 8:10 ~ 7/1 19:00 (Cs-137, 全β)
 2025/7/10 10:40 ~ 7/10 13:30 (Cs-137, 全β)
 2025/7/16 10:50 ~ 7/18 12:50 (Cs-137, 全β)
 2025/7/18 12:50 ~ 7/22 14:40 (全β)
 2025/7/22 10:40 ~ 7/22 14:40 (Cs-137, 全β)
 2025/7/29 10:20 ~ 7/29 13:30 (Cs-137, 全β)
 2025/7/31 14:20 ~ 7/31 15:20 (Cs-137, 全β)
 2025/8/6 14:10 ~ 8/6 15:50 (Cs-137, 全β)
 2025/8/7 9:50 ~ 8/7 13:10 (Cs-137, 全β)

法令告示濃度 (Bq/L)
 ■ セシウム137 : 90
 ▲ トリチウム : 60,000
 ● ストロンチウム90 : 30

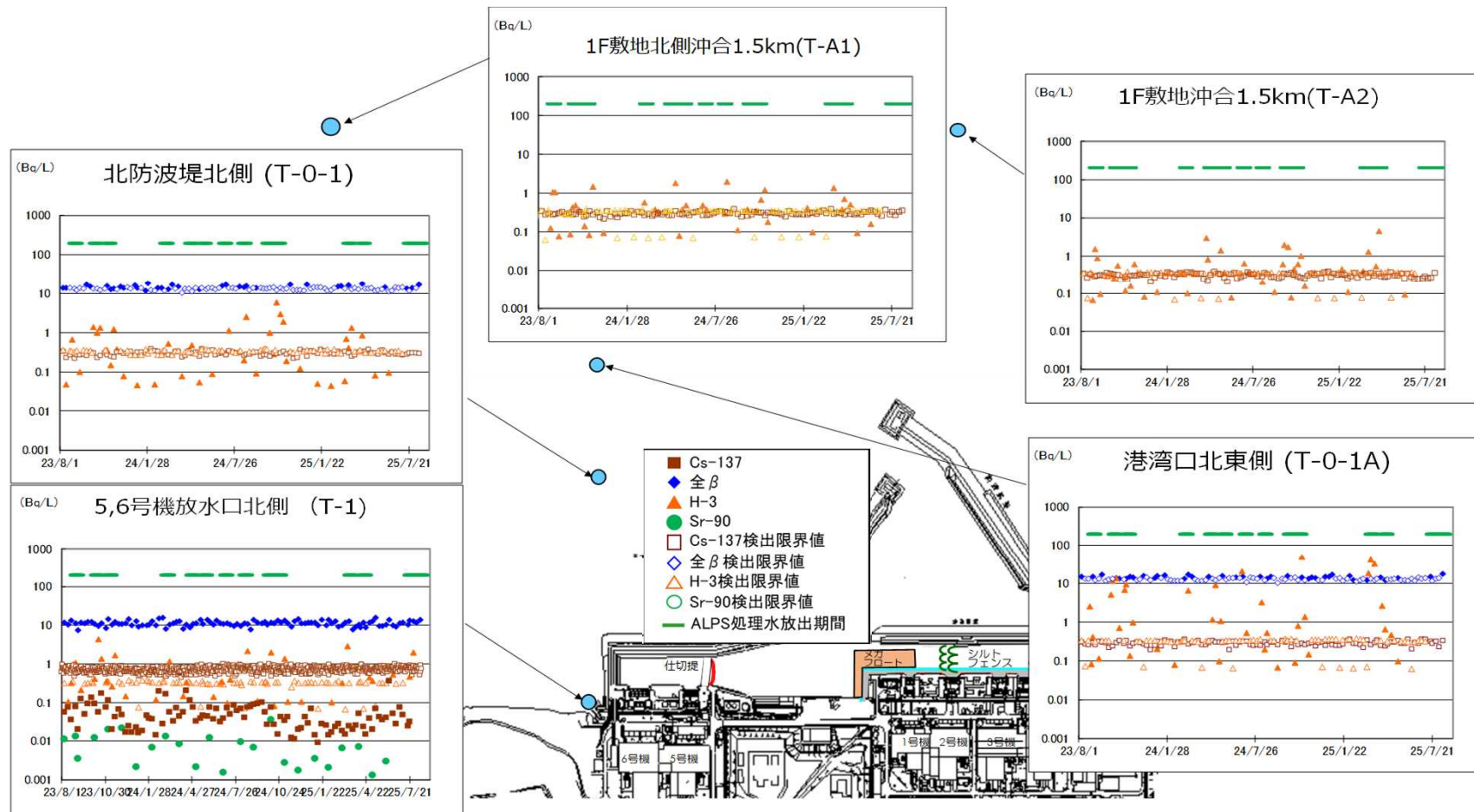
■ セシウム137
 □ セシウム137 検出限界値
 ◆ 全ベータ
 ▲ トリチウム
 ● ストロンチウム90
 ○ ストロンチウム90検出限界値
 — 降水量
 ※ ストロンチウム90以外の検出限界値
 未満はグラフ上にプロットしていない



※10Bq/L前後の全ベータ検出は、海水中の天然核種カリウム40(10数Bq/L)の影響を受けているもの。

【港湾外（周辺①）】 海水サンプリング結果

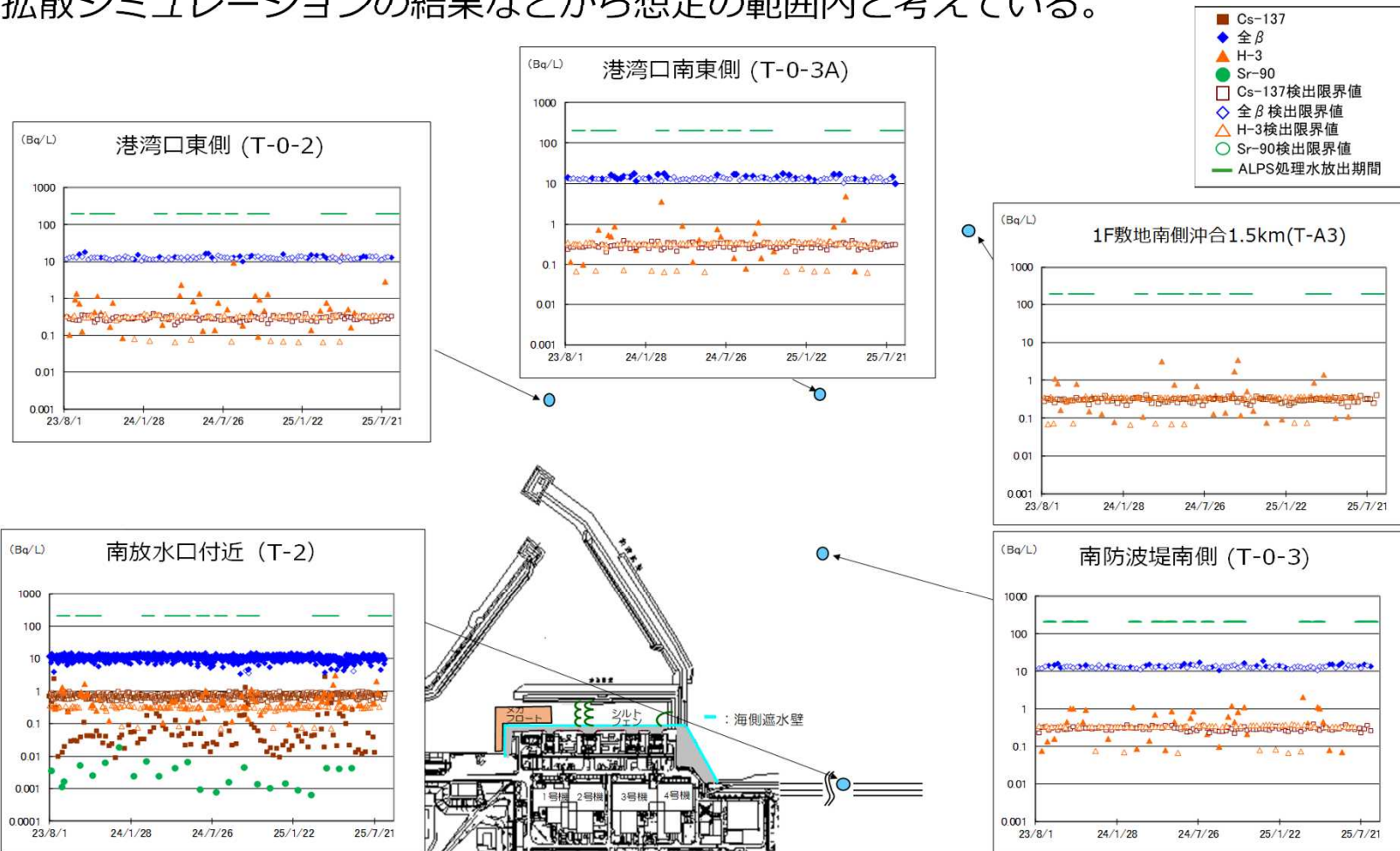
- 港湾外の各採取点は、セシウム137、トリチウムともほとんどが検出限界未満を継続している。
- 5,6号機放水口北側(T-1)におけるトリチウム濃度は0.3～4Bq/Lで推移している。
- ALPS処理水の放出期間中は、トリチウム濃度の上昇が確認されているが、低濃度であり海洋拡散シミュレーションの結果などから想定の範囲内と考えている。



※10Bq/L前後の全ベータ検出は、海水中の天然核種カリウム40(10数Bq/L)の影響を受けているもの。
 ※5,6号機放水口北側 (T-1) のセシウム137については、週1回の頻度で詳細分析を実施。
 ※2023年6月からトリチウムの検出限界値を月1回、約0.4→約0.1Bq/Lにして測定。

【港湾外（周辺②）】 海水サンプリング結果

- 港湾外の各採取点は、ほとんどが検出限界未満を継続している。
- ALPS処理水の放出期間中は、トリチウム濃度の上昇が確認されているが、低濃度であり海洋拡散シミュレーションの結果などから想定範囲内と考えている。



注)2024/6/11よりT-2の採取地点を、安全上の理由から南放水口約1300m南(T-2-1)へ一時に変更。

※10Bq/L前後の全ベータ検出は、海水中の天然核種カリウム40(10数Bq/L)の影響を受けているもの。

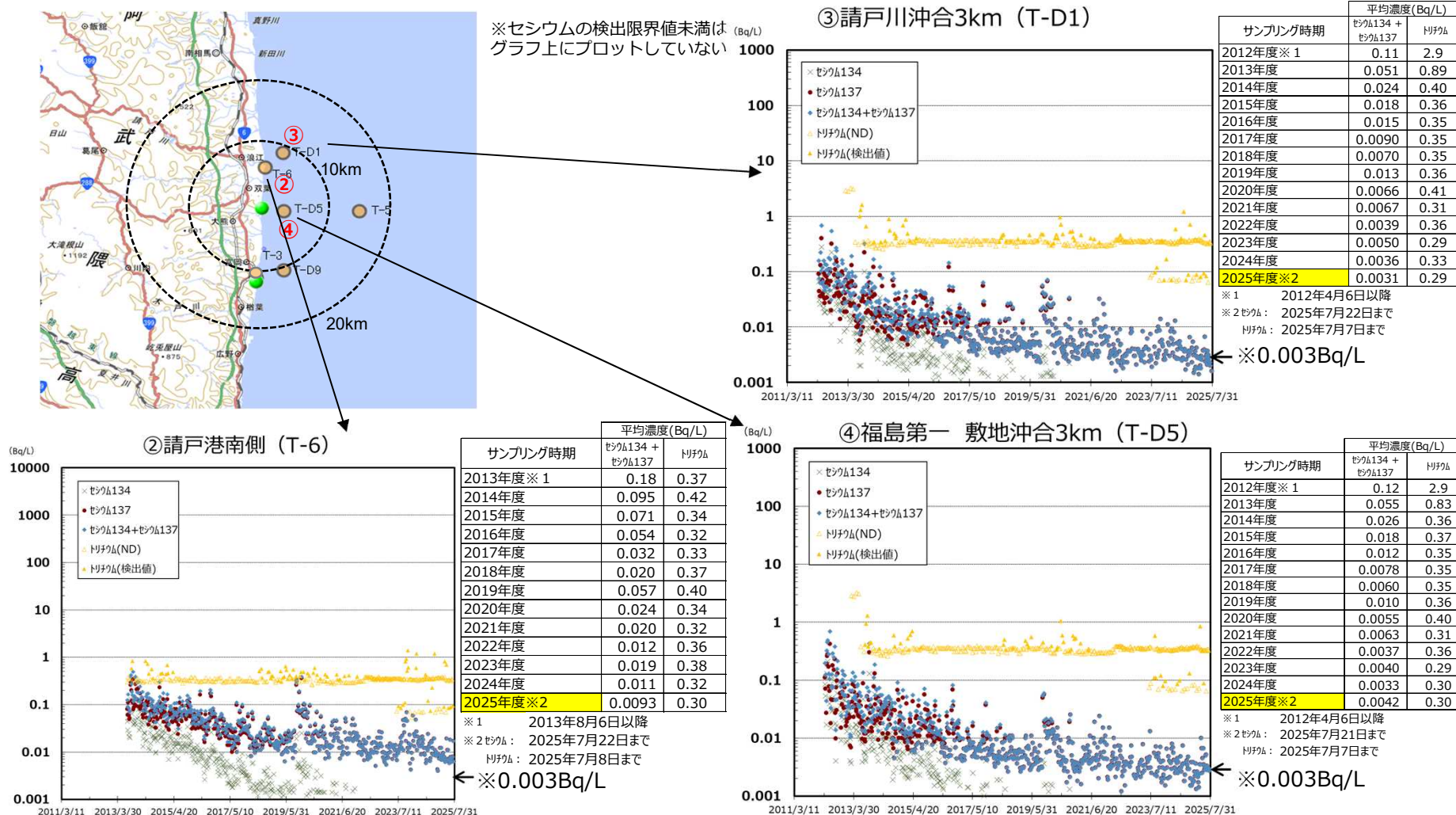
※南放水口約330m南(T-2)のセシウム137については、週1回の頻度で詳細分析を実施。なお、安全上の理由で2024/6/11より南放水口約1,300m南(T-2-1)へ変更した。

※2023年6月からトリチウムの検出限界値を月1回、約0.4→約0.1Bq/Lにして測定。

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

【福島第一10km圏内】 海水サンプリング結果

- セシウム濃度については、短期的には変動が見られるが、長期的に低下傾向である。
- トリチウム濃度については、概ね不検出（検出限界値0.4Bq/L）で推移している。



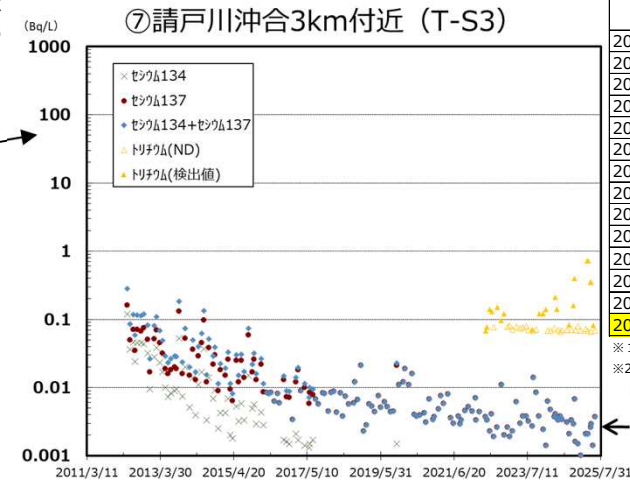
※グラフ右側の矢印 (0.003Bq/L) : 震災前 (平成22年度) の福島県海水セシウム137濃度 最大値
2022年度上期のトリチウム検出限界値 (ND) が微増しているように見えるのは、分析機関変更に伴う検出限界値のわずかな違いによるもの (目標検出限界値0.4Bq/Lは下回る)。2023年6月からトリチウムの検出限界値を月1回、約0.4→約0.1Bq/Lにして測定。

【福島第一10 km圏内】 海水サンプリング結果

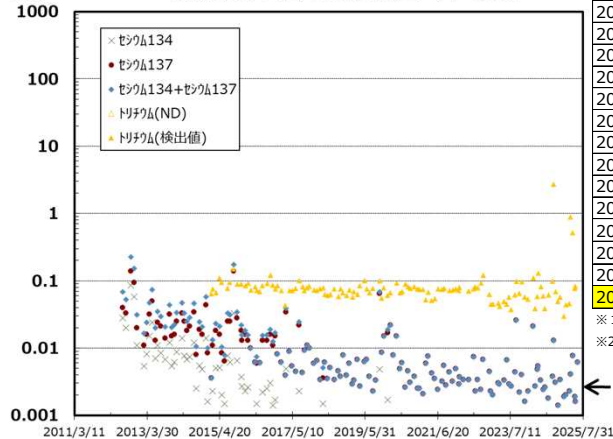
- セシウム濃度については、短期的には変動が見られるが、長期的に低下傾向である。
- トリチウム濃度については、概ね不検出（検出限界値0.1Bq/L）で推移している。



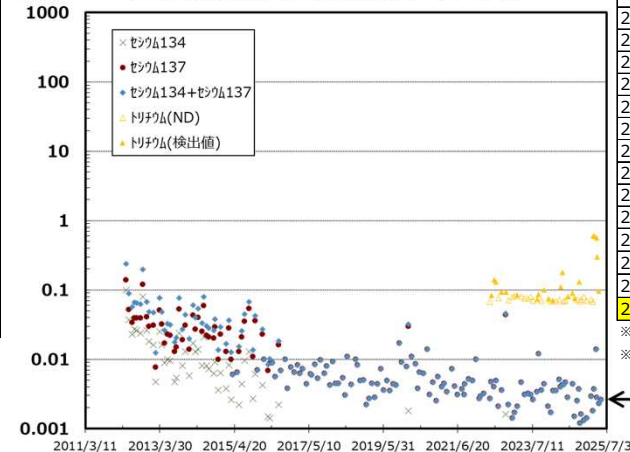
※セシウムの検出限界値未滿は
グラフ上にプロットしていない



⑨熊川沖合4km付近 (T-S8)



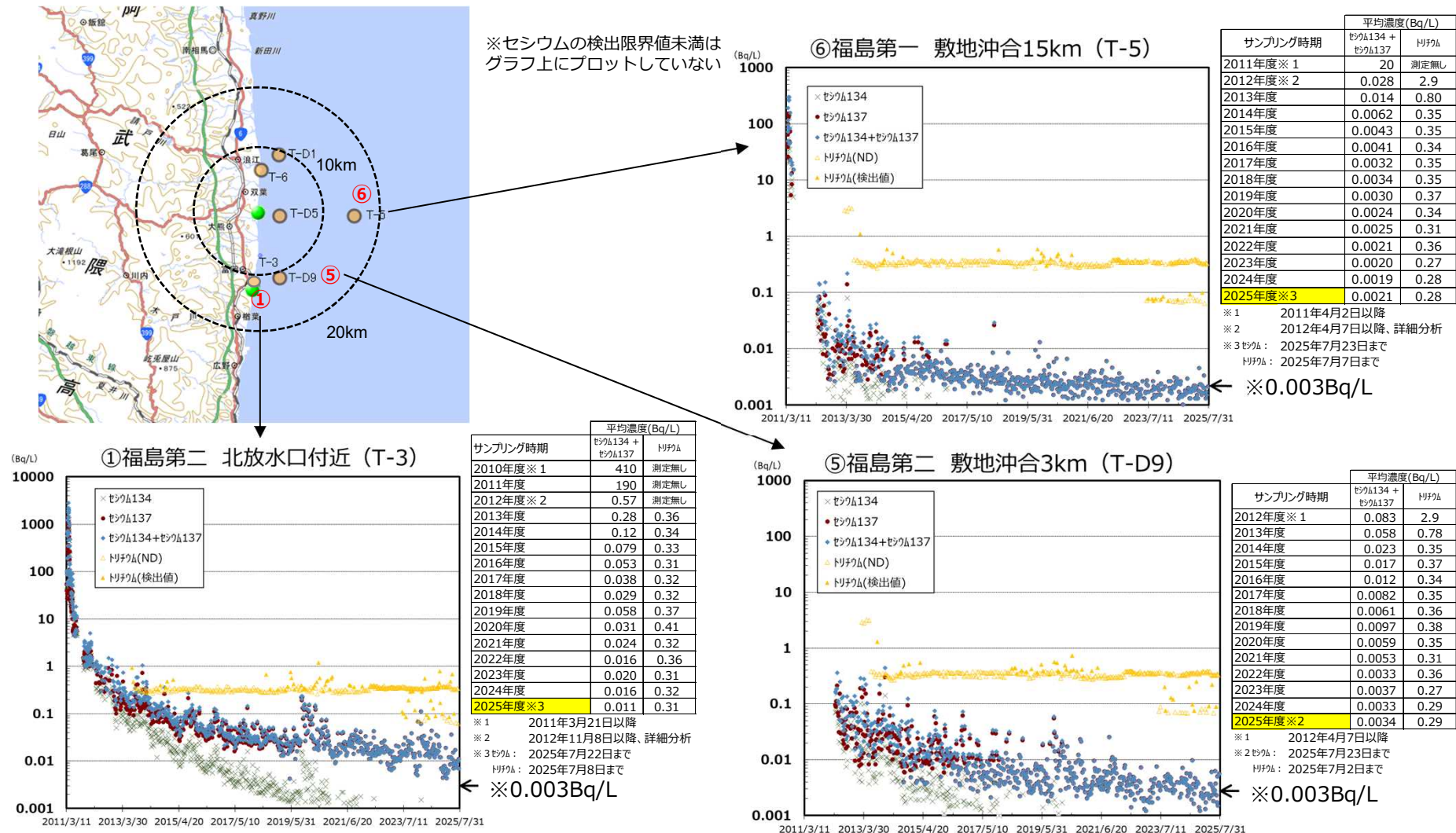
⑧1F敷地沖合3km付近 (T-S4)



※グラフ右側の矢印 (0.003Bq/L) : 震災前（平成22年度）の福島県海水セシウム137濃度 最大値

【福島第一10 km以遠～20 km圏内】 海水サンプリング結果

- セシウム濃度については、短期的には変動が見られるが、長期的に低下傾向である。
- トリチウム濃度については、概ね不検出（検出限界値0.4Bq/L）で推移している。



※グラフ右側の矢印(0.003Bq/L)：震災前(平成22年度)の福島県海水セシウム137濃度 最大値
2022年度上期のトリチウム検出限界値(ND)が微増しているように見えるのは、分析機関変更に伴う検出限界値のわずかな違いによるもの(目標検出限界値0.4Bq/Lは下回る)。2023年6月からトリチウムの検出限界値を月1回、約0.4→約0.1Bq/Lにして測定。